

通號	位	置	形	質	創設年月	水面ヨリノ高さ	大退潮ノ深サ	創設ヨリ十六年度ノ構造費常費
元山	長門國厚東郡ノ極南御崎ヨリ南方ニ延亘スル洲ノ南端		鐵造圓錐形赤色ニシテ籠球ヲ戴ク	鐵造圓錐形赤色ニシテ籠球ヲ戴ク	明治九年二月	一五〇	五五	一九〇五 一〇五
中ノ端	下ノ關海峽ノ東ニ當ル中ノ洲ノ東端		鐵造圓錐形赤色ニシテ籠球ヲ戴ク	鐵造圓錐形赤色ニシテ籠球ヲ戴ク	同 六年九月	一〇〇	三〇	一〇六〇 三〇
中ノ端	下ノ關海峽ノ東ニ於ケル中ノ洲東浮標ノ西方ニ當リ該洲ノ南邊		鐵造圓錐形赤色ニシテ籠球ヲ戴ク	鐵造圓錐形赤色ニシテ籠球ヲ戴ク	同 二年六月	一〇〇	三〇	二九二七 二二
金伏	下ノ關ノ海峽ノ東ニ當ル金伏岩ノ南		鐵造圓錐形赤色ニシテ籠球ヲ戴ク	鐵造圓錐形赤色ニシテ籠球ヲ戴ク	同 二年六月	一〇〇	九〇	一八六三 四一
大櫓根	下ノ關海峽ノ西口大櫓根瀨ノ東南端祖礁ノ北西凡ソ八鐘ノ地		鐵造圓錐形赤色ニシテ籠球ヲ戴ク	鐵造圓錐形赤色ニシテ籠球ヲ戴ク	同 八年六月	一一五	六〇	一九〇五 一八一
藍ノ島	下ノ關海峽ノ北西ニ當ル藍ノ島ノ北端ヨリ北西ニ延ヒタル礁却ノ北端		鐵造圓錐形赤色ニシテ籠球ヲ戴ク	鐵造圓錐形赤色ニシテ籠球ヲ戴ク	同 八年八月	一五五	六〇	一九〇五 一八一
船川	羽後國船川港		鐵造圓錐形赤色ニシテ籠球ヲ戴ク	鐵造圓錐形赤色ニシテ籠球ヲ戴ク	同 十一年十月	一〇〇	三〇	七五〇 九二

第四百十七

礁標及諸費

明治十七年十二月三十一日現數

通號	位	置	形	質	創設年月	水面ヨリノ高さ	大退潮ノ深サ	創設ヨリ十六年度ノ構造費常費
釜石	陸中國釜石港内航路ノ東ニアル南中瀨岩		鐵造製方錐形赤色ニシテ頭ニ籠球ヲ戴ク	鐵造製方錐形赤色ニシテ頭ニ籠球ヲ戴ク	明治十年五月	一八三	九二尺	八三二 一四
横須賀	相模國横須賀灣口ノ東方ニアル礁上		鐵造製赤色ニシテ頭ニ籠球ヲ戴ク	鐵造製赤色ニシテ頭ニ籠球ヲ戴ク	同 十一年五月	三〇	凡九尺	三〇六五 一〇
長太夫	備後國「メカリ」瀨戸細島ノ北ニシテ航路ノ南ニアル長太夫岩		石造圓錐形ニシテ赤黒ノ横線ニ塗ル	石造圓錐形ニシテ赤黒ノ横線ニ塗ル	同 十三年二月	一七〇	水面ヨリ露出セス	五二〇 二
與次兵衛	下ノ關海峽航路ノ東ニ於ケル與次兵衛岩		石造圓錐形ニシテ赤色ニ塗ル	石造圓錐形ニシテ赤色ニ塗ル	同 四年七月	一六〇	水面ヨリ露出セス	五二〇 二
鳴瀨	下ノ關海峽航路ノ北ニ於ケル鳴瀨石		石造圓錐形其頭倒置狀ニシテ白色ニ塗ル	石造圓錐形其頭倒置狀ニシテ白色ニ塗ル	同 四年七月	一四〇	水面ヨリ露出	五二〇 二
組瀨	下ノ關海峽航路ノ北ニ於ケル組瀨岩		石造圓錐形其頭球形ニシテ黒白ノ横線ニ塗ル	石造圓錐形其頭球形ニシテ黒白ノ横線ニ塗ル	同 四年七月	一一三	礁面稍々見ユ	五二〇 二
伏瀨	肥前國平戸海峽ノ南口ヨリ南方ニ當ル又平戸島ノ南端ヨリ南東凡六里半ニアル伏瀨岩		石造圓錐形其頭半球形ニシテ赤白ノ横線ニ塗ル	石造圓錐形其頭半球形ニシテ赤白ノ横線ニ塗ル	同 十年四月	三四〇	水面ヨリ露出ス	二五七三三 六一

平瀨岩

肥前國長崎港口平瀨岩

石造圓錐形其頭球形ニシテ赤白ノ横線ニ塗ル

同十三年七月

水面ヨリ露出ス

七三〇

二

第四百十八

諸燈及諸標費額

年	度	構	造	費	常	年	度	構	造	費	常	費
明治十六年度				五三、五二三		自明治八年一月			七八、二一八			五三〇、三六
同 十五年度				三〇、七七五		自同 七年一月			七四、〇五三			五〇、一四三
同 十四年度				三二、五三二		自同 六年一月			一六、一六七			七二、三一一
同 十三年度				三〇、一〇〇		自同 五年一月			一六、一六二			八、一三六
同 十二年度				五〇、三〇八		自同 四年一月			六〇、四三五			四四、四四八
同 十一年度				二四、六七七		自同 三年一月			一三五、九七四			四五、一五一
同 十年度				二四、八二五		自同 二年一月			二〇五、一八七			三、三二七
同 九年度				四九、七八九		自同 元年七月			一一五、九〇七			二五二
同 八年度				四七、〇四四		至同 元年七月			一〇、一三六			

表中構造費トハ建築及諸機械費等ニシテ常費トハ守燈方給料、燈油代、修繕費等ヲ合算シタル者ナリ

民設舊燈明臺及浮標、礁標ハ曩ニ工部省ヨリ各府縣ニ達シ明治十六年十二月三十一日ヲ以テ始メテ調査セシモノニシテ其數九十一個トス其築造及器械等精良ナラスト雖モ各所ノ港灣ニ於テ船舶ノ爲メニ其効用ヲ與フル勘シトセス而シテ其最古キハ寛永二年(西曆千六百三)明曆二年(同千六百六)創設ニ係ル者アリ